

## 第52回日本泌尿器科学会群馬地方会演題抄録

日 時：平成 21 年 6 月 13 日 (土) 15 時 00～  
場 所：群馬大学医学部内 刀城会館  
会 長：小林 幹男 (伊勢崎市民病院)  
事務局：柴田 康博 (群馬大院・医・泌尿器科学)

### 〈セッション I〉

座長：森川 泰如 (群馬大学)

#### 臨床症例

#### 1. 処女膜閉鎖症に伴う子宮腔留血腫が原因と考えられた尿閉の 1 例

加藤 春雄, 大塚 保宏, 曲 友弘  
小倉 治之, 黒澤 功

(黒沢病院 泌尿器科)

症例は 12 歳, 女児. 下腹部痛, 排尿困難を主訴に当院救急外来を受診した. 尿閉にて導尿を行い症状は改善したものの, 導尿後も下腹部に腫瘤を触知し, エコーで嚢腫状の腫瘤を認めた. MRI で精査したところ, 血腫にて子宮頸部, 膣は著明に拡張し, 膀胱の腹側への圧排を認め, 子宮腔留血腫が尿閉の原因と考えられた. 近医産婦人科受診し処女膜閉鎖症の診断にて処女膜切開術を施行し, その後は下腹部痛, 排尿障害は改善し規則的な月経も認めている. 処女膜閉鎖症は鎖陰の 1 つであり, 思春期に月経血が排出されないために生じる子宮腔留血腫に起因する様々な症状を呈して発見されることが多い. 留血腫の圧迫による排尿障害が主訴となることもあり, 初潮年齢の女児で排尿障害を訴える場合には本症の可能性も念頭に置く必要がある.

#### 2. 多彩な症状にて発症したハッチ憩室症例

古谷 洋介, 黒川 公平  
(国立病院機構高崎病院 泌尿器科)  
合田 史 (同 総合診療科)  
牧野 武朗 (群馬大院・医・泌尿器科学)

症例は 75 歳, 男性. 急性腎不全, 敗血症, ショック, 下血, 血尿, DIC のため, 当院 ICU に緊急入院. 集中治療により, 救命し全身状態の改善を認めた. CT 上, 両側水腎症, 右腎萎縮, 膀胱内血腫, 膀胱壁肥厚の所見. 当初, 膀胱癌, 前立腺癌, 直腸癌などの悪性腫瘍が疑われた. 前立腺

生検・TUR-Bt (TUR-biopsy) にて病理学的に悪性所見なし. 大腸ファイバーで直腸ポリープのみであった. 左腎瘻造設・再 TUR-Bt 施行した際, 左尿管口の偏位と尿管口外側の膀胱憩室を認め, Hutch 憩室と診断し, 左尿管ステントを留置した. 後日, 左尿管膀胱新吻合術施行し術後経過良好である. 本症例では, 当初診断に苦慮したが, 一連の重篤な症状の根本は Hutch 憩室であったと推察される.

#### 3. 巨大膀胱結石を合併した血友病患者の一例

横山 由就, 廣野 正法, 宮久保真意  
森川 泰如, 岡本 亘平, 野村 昌史  
小池 秀和, 松井 博, 柴田 康博  
羽鳥 基明, 伊藤 一人, 鈴木 和浩

(群馬大学・院・泌尿器科学)

内海 英貴, 小川 孔幸 (同・第三内科)

症例 56 歳男性 主訴: 血尿 現病歴: 昭和 31 年血友病 A 発症し, 当院第 3 内科にて加療中. 同疾患による関節内血腫による歩行障害あり 平成 21 年 4 月 4 日血尿出現したため救急外来受診. 受診時尿の混濁あり. 凝固因子製剤使用したものの血尿の改善認められず, 血尿コントロールおよび尿路感染症の診断で緊急入院. 入院後の腹部超音波検査および腹部 CT で両側水腎症・直径約 7 cm の膀胱結石を指摘. 4 月 6 日当科紹介. 入院後血尿は改善するも頻尿, 残尿感の増強あり. 徐々に腎機能も増悪あり. ハイリスク症例であったが, 血液内科との協診の上, 開腹膀胱切石術+膀胱瘻造設術を行った症例に学術的考察を加えて報告する.

#### 4. ステロイドが著効した CAPD 離脱後の硬化性腹膜炎の一例

大木 亮, 町田 昌巳, 小林大志朗  
塩野 昭彦, 牧野 武雄, 柴山勝太郎

(公立富岡総合病院 泌尿器科)

症例 64 歳女性. 平成 11 年 5 月慢性糸球体腎炎による慢性腎不全にて CAPD 導入となり, 約 9 年間継続した.